

## 副専攻名 日本語教育

## 副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

## 副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

## 副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	2	
16011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身につける	1		2
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2	2	
16019	日本民俗文化論		2	2	
16013	日本史概説	北陸地方を舞台とする近世以降の歴史について、都市史研究の視点を導入することで理解を深める。あわせて、日本の近世史・近現代史の概説に関する理解も深める。	2		2
16014	日本経済論	戦後の日本経済の展開を具体的に理解し、今日の経済社会を読み取る一視点を身につける	2		2
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力をつける。	2	2	
16016	日本政治・外交史	政治学及び国際関係の専門用語を紹介する・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。・英語のリーディングやリスニングを到達させる。	2	2	
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2		2
16024	日本の近現代文学	文学作品を、「なにが」語られているかだけではなく「どのように」語られているか意識する視点を獲得し、日本近現代文学を精読できるようになる	2	2	
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこの内政、国際関係を理解する。	2		4
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2		2
16005	国際コミュニケーション論	国際政治におけるマスメディアの役割、影響等	2		4
51203	東アジア社会情報論A	東アジア地域における歴史、宗教、民族、文化を知る。東アジアにおける多文化、多言語社会化について展望する。	2	2	
51204	東アジア社会情報論B	東アジア地域における歴史、宗教、民族、文化を知る。地域間の経済交流の実態を知る。東アジアにおける多文化、多言語社会化について展望する。	2		2
51205	現代中国論	現代中国の政治を中心に、これに関連する社会・経済・歴史・文化についての知識を増やし、中国に対する理解を深める。	2	4	
51308	米英言語思想論	英語論文の精読を通して、現象について深く観察し、理解を深めることで、言語に対する深い洞察力・分析力を身につけると共に、自身の英語力向上に生かせるようにする。	2~3	2	
51404	現代ヨーロッパ社会論	ヨーロッパの現代社会が抱えているさまざまな問題についての分析・議論を通じて現代ヨーロッパについての理解を深める。それと同時に日本の現代社会への視座をも獲得する。	2	2	
51124	社会言語学	社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて言語現象や言語運用を捉えようとする学問である社会言語学についての様々な事例を学び、日本語教育的観点から、現代日本語と社会の関係とその応用の可能性についての知識を得ることができる。	3~4	2	
51125	社会言語学実習	フィールドワーク(臨地調査)を通じて、文字言語の世界では体験できない生きた人間の話す日本語(地域語)の実態を知り、その体験の中から音声言語としての日本語、言語と社会の関係、ひいては共通語とは異なる機能や価値をもつ地域語(方言)への理解を深める。	3~4	1	
51309	米英メディア文化論	アメリカ文化表象の深層にある集団的思考の方向性を具体的に考察し、論理的に提示する能力を養う。	3~4	2	
16010	異文化理解	世界各地の文化(日本を含む)への理解を深める	2	2	
51008	多文化主義論	複数言語を公用語としている諸国の実態等を学ぶ	3~4		2

**副専攻名 日本語教育**

**副専攻のCP(カリキュラム編成方針)**

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

**副専攻の学習成果**

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

**副専攻を構成する科目**

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期
51113	第二言語習得論	第二言語習得のこれまでの理論と新理論を学ぶ。その理論に沿った実践例を見、日本語教育にどう役立てるかを考える。	3~4	2	
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2	2	
51107	日本語教科書研究	・日本語教育における「学習」について理解する。・日本語教科書や教材に関する基礎知識を習得する)・様々な視点から、日本語教科書を分析することができる。・日本語教科書の実際の使い方を考えることができる	2	2	
51108	日本語教授法A	1)日本語(文法、語彙・表現)や日本文化に対する理解を深める。2)「日本語を教える」とはどのようなことなのか、その目的を理解し、そのために必要な教授法やコースデザイン、日本語の文法についての知識を深める。3)実際に初級レベルの日本語学習者をどのように指導するのか、指導の方法を学び、教案を作成する。4)模擬授業の形式で、実際に日本語を教える模擬体験をし、コミュニケーションを重視した日本語を指導するにはどのような知識や心構えが必要とされるのかを自ら学ぶ。	2		2
51109	日本語教授法B	・日本語教授法Aで学んだ教授法の基礎的な知識と実践を確認する。・基礎的な教授法をもとに、技能別(聞く、話す、読む、書く)の教授法や応用的な教授法を理解する。・多様な日本語教育のニーズに対応するための、目的別の教授法を理解する。・交流型の日本語活動の理念と実施方法を理解する。5)さまざまなタイプの模擬授業を計画し、実践する。	3~4	2	
51114	日本語教育方法論	・従来の日本語教育の現場と、社会型日本語教育の流れも含めた「日本語教育の全体像」が概観できる。・)従来イメージされていた日本語教育の専門性と、社会型日本語教育の専門性を簡単にではあるが、比較検討できる。・社会型日本語教育の中心活動になる「課題達成活動」「対話中心活動」の具体的方法について大体把握できる。	3~4	2	
51110	日本語教育とコンピュータ	・日本語教育における学習ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。・日本語教育における学習管理ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。・日本語教育における教授ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。・コンピューターのさまざまな機能を利用しながら、教材を作成する。	3~4		2
51111	日本語教育評価法	・日本語教育の場面で用いられる評価法の目的・種類・形式・判断基準がどのようなものか説明できる。・利用目的に応じた評価法を選択できる。・おのおのの評価法を適切に用いることができる。	3~4	2	
51117	日本語教育史	外国人への日本語教育はここ30年ほどの期間に年々盛んになったと理解している学生が多いが、実は19世紀末から第二次世界大戦終結の1945年までの50年近い期間に、日本のアジア占領政策の中で行われた台湾、朝鮮半島、南洋諸島、中国満州での日本語教育が早い時期のものである。授業では、そのような戦前の海外での日本語教育の歴史を中心に概観し、日本語教育能力検定試験にも対応できるような知識を身に付けさせる。	3~4		2
16020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声、語彙、文法、文字表記などの分野ごとに身につけ、日本語への理解と関心を深めることができる。	2	2	2

## 副専攻名 日本語教育

### 副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

### 副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

### 副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期
51101	日本語の文字・表記	日本語の文字・表記に関する基本的な知識を身につけ、常用漢字表・現代仮名遣い・ローマ字のつづり方等、現代日本語表記の基準・目安について歴史的背景も含めて理解を深め、日本語教育に生かすことができる。	2		2
51102	日本語の意味	日本語教師をめざす者として母語に敏感になるための一方策として、日本語の類義語や類義表現の意味の違いについて、用例をもとに客観的に観察し、分析する中で意味分析の方法を身につけることができる。	2		2
51103	日本語史A	音韻・文法・敬語等の分野を中心に日本語の歴史的变化についての基本的な知識を身につけることで、現代日本語の特質や仮名遣いの問題についてより深く理解することができる。	2	2	
51104	日本語史B	日本語の構造に関するトピックを取り上げ、その背景にある歴史的側面についての理解を深める。また、日本語を多角的に考える上で必要とされる、周辺言語と交流に関する基本的な知識を身に付ける。	2		2
51105	日本語文法A	これまでの日本語学・言語学の枠組みの中での日本語文法の概略も理解しつつ、日本語教育に必要な日本語文法が再構築できるようにする。	2		2
51106	日本語文法B	様々なレベルの日本語学習者を教える上で必要な文法的概念についての知識を習得する。それらの知識を用いて、学習者の抱える個々の文法的問題を自分で考えて解決することが出来る。また、適切な例文を作り、学習者に提示しながら説明が出来る。	2	2	
51118	音声学	言語教育における音声の重要性を理解し、日本語の音声について、日本語教育的観点から深く理解することができる。また、日本語を含む諸外国語の代表的音声の発音と聞き取りができるようになる。	2	2	
51121	対照言語学	・日本語の特徴を、他言語と対照させて把握できる。・日本語学習者の干渉による誤りを予測できる。・日本語の特徴をふまえて教授方法を工夫できるようにする。	2	2	